

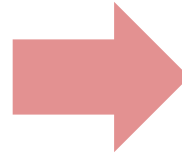
# 【新規】 からのワインDX推進事業

令和6年度予算額 3,300千円  
(新規)



## 現状・課題

- 人手不足
- 現場作業が多く、事務作業が業務時間外となり、長時間労働の常態化
- 「技術・経験・勘」に頼る業務・作業ノウハウ
- 原材料の高騰による原価コストの増加
- 赤字決算
- 課題解決のための専門知識・経験・人脈・ノウハウ・経営感覚の不足



人手不足や働き方、収支状況、業務プロセス等を改善するため、デジタル技術等を活用し、これまでの業務の進め方を見直し、業務を抜本的に変えていく「変革」を行い、持続可能なワイン事業の実現が必要。  
例) 醸造過程の温度管理にセンサーやカメラなどのIoTデバイスを導入し、パソコンやタブレット端末等で状況をいつでも確認できるようにし、データも蓄積する。

## 事業内容

### ■概要

ワイン事業の経営及び業務改善に向け、民間企業において培った専門知識・業務経験・人脈・ノウハウの活用、外部の視点・民間の経営感覚・スピード感覚を得ながら課題解決への取組を複数年に渡り展開する。

ワインの製造、販売に関する全行程を現地調査やヒアリングから“見える化”し課題を抽出。抽出された課題に対する解決策を検討、提示。技術的難易度や費用、受益範囲、省力効果等を評価し優先順位を決定し、DX化等を推進する。

また、「からのワインブランド向上事業」とも連携し取組を行う。

### ■予定委託先

業務事業者選定を公募型プロポーザル方式により募集する。



- 課題のヒアリング・洗い出し
- 課題の可視化
- 解決案の提示
- 解決優先順位の決定
- 令和7年度予算に反映（業務改革・設備投資等）



令和7年度



- 業務改革・設備投資等の実施
- 令和6年度に積み残した課題の解決案の提示
- 解決順位の決定（令和6年度の課題を含む）
- 今年度の実施結果の検証と成果、課題の確認
- 令和8年度予算に反映（業務改革・設備投資等）

令和8年度



- 業務改革・設備投資等の実施
- 令和7年度に積み残した課題の解決案の提示
- 解決優先順位の決定（令和6～7年度の課題を含む）
- 今年度の実施結果の検証と成果、課題の確認
- 次年度以降の方向性についての協議
- 令和9年度予算に反映（業務改革・設備投資等）

令和9年度

委託先と連携し、DX化・省力化を実施

### アウトプット(活動目標・指標)

- 品質に影響のない業務・作業のDX化
- データに基づいたマニュアルの作成
- 超過勤務時間数の縮減
- 年休取得日数の増加
- 適正な職員配置の実施
- ぶどう・ワインの品質の向上
- 確実な技術の継承
- コンクール受賞ワイン数の増加
- 道外・海外への販路拡大
- ワイン売上本数の増加
- 黒字化による利益剰余金の増加
- 施設・設備の大規模改修の実施
- 持続可能なワイン事業の実現
- からのワインのリブランディング

### アウトカム(成果目標)

- からのワインの認知度の増加
- 顧客満足度の増加
- からのワイン愛飲者の増加
- 観光客の増加（道内外・海外）
- 工場来場者の増加（道内外・海外）
- 富良野市の魅力度向上
- シビックプライドの醸成

### インパクト(社会への影響)

- 日本ワイン銘醸地「富良野」の確立
- 北海道・日本のワイン産業の発展に寄与